教養部ストはできなかったけど 入寮募集停止に反対する声は 全学からどんどん出てきているんだ

一月三日、午前十一時過ぎから教養一〇四教室で北津寮主催の「2・3教養部生総決起集会」が開かれ、百二十名近くの学生が参加した。

これは昨年十一月二十四日の入寮募集停止決議に抗議し、白紙撤回を求める運動の一環としておこなわれたもの。もともとは二月三日に教養部の終日ストライキを打つ予定であったのだが、スト貫同署名が結局五百二十二しか集まらず、教養部生の過半数約二千人には遠く及ばなかったため、二時間目の時限スト、自主的授業ボイコットという意味でこの集会に切り替えられた。なお、いういった学生の集会が教養の教室で自主的におこなわれたというのは実に十年ぶりのこと。

集会では主催者の北津寮をはじめ、白紙撤回要求決議をあげている女子寮、学友会、植物生理学研究室、社研、法学部一回生31組有志、そして京都大学熊野寮・吉田寮などから発言があった。

北津寮は今回の教養部ストについて"不発"に終ったものの約十日間で五百余りの賛同署名を得られたこと、また署名を通じて多くの学生に寮問題を知ってもらうことができたという点で高く評価しており、四月にはぜひ二千人以上の署名を集めて教養部終日スト、さらには学部ストをおこなって入寮募集停止決議撤回を大学側に迫っていこうとしている。

この集会に先立つ一月二十八日には学友会が幹事会において全所属サークル八十二団体中七十五団体の賛成という圧倒的多数で「11・24評議会決議白紙撤回、当局は学生と交渉せよ」を主旨とする決議を承認した。また昨年十二月に同じような決議を挙げている共済会学生委員会は「大学当局が自己批判しなければ四月以降の運営委員会をボイコットする」との方針。

入寮募集停止に反対する運動はだんだん広がってきているが、今のところ大学当局は寮生との交渉にも応じず、募集停止断行のかまえである。北津寮は自主入寮募集をおこなうことを宣言しており、来年の入試時には寮生と、自主募集をも禁止しようとする大学当局との対決は避けられそうにない。

渡辺香津美が22日に 学館ホールでソロコンサート

現在日本のトップジャズギタリスト、渡辺香津美が二月二十二日に岡大学生会館ホールでソロコンサートをおこなう。開演は午後六時半、入場料は前売り千五百円、当日千八百円、すでに市内の各プレイガイドで発売を開始している。

主催者のJAZZ研究部によれば「今回のコンサートは全国ソロコンサートツアーの一環なので、ちょっと時期的にはおかしいんですが、前から呼びたかったミュージシャンだけにぜひ今回やろうということで。

香津美というとどうしてもフュージョン系というイメージがありますが、このコンサートはソロなので、昨年出したアルバム『ドガタナ』にあるような東洋的、民族音楽的なものが強く出されるでしょう」とゆーことで、セッティングもステージを使わずにフロアで香津美を囲んで、という雰囲気にするそうだ。

学友会事務員は休みが年に 百日、時給八百円の優雅さ

学友会の事務室に行ったことあるかな、新BOXの一階の、印刷機なんかが置いてある部屋だ。ここに事務員の人が、たいてい居る。はっきり言って彼の学生に対する態度というのは教養部の職員なみで、知らない人はきっと大学職員だと思うだろうけど、実は彼は学生雇い、学友会が直接雇っているのだ。だから給料は僕たちが入学時に払った一万円ナリの学友会費から出ているんだ。

幾らかというと今年度で学友会予算総額が一〇〇〇万円のうち人件費は百五十五万三千四百円。これがそのまま彼の手取り年収になっている。信じられないのはその雇用条件だ。

契約書によると日曜・祭日以外に夏休み、冬休みそれに春休みまであって年間の休日は合計一〇九日、二カ月以上もある。つまり出勤日は残りの二五六日で、一日がふつう午前十時から午後五時までの七時間、半日の時もあるから勤務時間は一年で千七百五十六時間これで彼の年俸を割ってみると、ナント時給八百六十五円！しかもこのままでは四月からは時給九百円代になるかも。

僕たちが汗水垂らしてコキ使われても時給五、六百円がいいとこ、女の子なんか四百円代のバイトもまだザラにある。年収一五〇万にしても、いま姿に入れる上限が親の年収二百万円なんだぜ。

しかもその仕事内容たるやサークルへの電話の取次と備品の管理、それにお金の出し入れぐらいなもので、たいていの時間は内職の英語訳本作製か自分の裁判の資料を読んでいる。ひどい時には外出しちゃって大学祭企画委員会なんかに出席している。このことに文句を言ったら「ちゃんと事務机の上に行き先を書いて置いてあるから問題はないはず」だって。だれが電話を取次んだよ。

臨調・行革には反対だし人件費を減らせと言う気もない。ただ給料なみの仕事だけはしてもらいたいと思うのだけど、とにかくあれだけ休まれると外から電話がかかってくることが多い僕たちとしては不便で仕方がない。

公認問題が解決、BOXも無事戻って新聞会は今年もがんばります

ちょっと報告が遅くなってしまったのだけど、学友会は昨年の十一月十五日をもって僕達の新聞会（代表土屋）が唯一の公認新聞会であると確認した。これで去年の春に共青が作った同名の「新聞会」（中村代表）が学友会とは無関係であることが確定し、また彼らが暴力的に占拠していた新聞会BOXも八カ月ぶりに僕たちの手に戻ってきた。

これまで彼らによる詐欺的な広告の横取りや不当な誹謗中傷などによって新聞会の活動がずいぶん妨害されてきたし、BOXを持たなかったための問題も大きかったのだけど、今回でそれらが全て解決し、もう無駄なエネルギーを使わなくていいと思うとホントにうれしくなってくる。いろいろと支援協力していただいた皆さんには心から感謝します。

僕たちはこの一年間、そういった困難の中で活動を続け、岡大新聞を六回ほど発行してきた。新しい編集方針のもとで、この編集方針は、以前のような編集者が読者よりも高い所にいて、そこから政治的イデオロギー的な意見を一方的に押しつけようとする傾向を反省し、逆に編集者は読者は同等であり、岡大新聞は岡大という一つの社会の構成員のためのコミュニケーションのためのメディアと位置付けるものなのだ。

実際に、昔はまるでなかった学生からの反応も、「おもしろい」から「くだらない」までけっこう返ってくるし、女子大から入会希望者が来るかと思えば抗議されることもあるというわけで、それだけ新聞が多くの人たちに読まれるようになっている。だから、マスコミというほどではないけれど、かなり責任も重大だな、という感じ。

今年はこの編集方針をさらに発展させて、よりおもしろく、本当に学生相互のコミュニケーションを活発にしていくような新聞発行を目指してがんばりたい。とりあえずは、現在実質三人しかいないスタッフを何としてもニケタに増やして、より計画的に活動できるようにしていかないと。だれか一緒にやろうという人はいませんかね。

BOXは学友会新BOXの一階、東から二つ目です。なお、新聞会BOXを現在出版会や反戦反核実行委が連絡先として使っていますが、これは間借りという感じで、新聞会とは全く別の団体なので誤解されぬように。

FROM EDITORS

▽今回、ぼくはスポーツ記事を取材して書きました経験が足りないため、レイアウトや見出しの入れ方にかなり難点があり、反省のしているところです。失敗は成功のもと、とよく言いますが、四月からの新聞づくりに今回の経験を生かしていくつもり

●新聞会で活動を始めてもう四ヶ月ほどになる。その間に出した新聞は三部取材や記事は、まだ自分で満足できるものであるとはいえない。そしてある目標に容易に達成できぬとき、苦悩しあきらめの気持ちが自分の中に湧きあがる。そんな時、ぼくは、自分がもつ新聞制作の動機というものを思いおこす。動機は単純だ。新聞を通じての読者をエンターテインすることだ。その強い達成動機があればこそ、自分は苦悩もあきらめから脱却できるのです

●なんたかんたと申しましたが、人間は障害を一つ乗り越えることにより強くなるのは確かです。同じことが新聞制作にもいえます障害にぶつかってもくじけずに、一歩一歩着実にやっていくつもりです。具体的には、メンバーを増やして自己満足でない新聞づくりをしようと思います。今、頭の中で構想を練っている真最中。今後の岡大新聞に、どうぞ御期待を——！

（伸浩）

▽今回はただでさえ少ないスタッフが修論執筆とかかぜで寝込んだりということでスルスル遅れてしまったごめんなさい

▽特集が盛沢山で、岡大新聞にしては硬い記事が多いかもしれませんが、やはり決める時はヒシッと決めなければいかん

●さて、今号で八二年度は終りです。皆さんの前には四月に再登場しますので待っていて下さい。スタッフ大募集中！

山陽学園短大の皆さんごめんなさい

私たちが昨年発行した岡大新聞大学祭特集号（十一月十日付）の記事内容につきまして山陽学園短期大学の大学祭実行委員会と学生会より抗議をうけましたので、それについて謝罪させていただきます。

問題となったのは十ページの「学祭インタビュー」と十一ページの「あなたにとっての岡大津島祭とは？」の中で山陽短大に関する記述が同校の学生、教職員に不快感を与えるというものでした。

もちろん私たちは山陽短大に対して悪意や差別意識を持って記事を書いているわけではありません。山陽短大の皆さんが不快に思われた二つの部分についても軽い気持ちで、男性から見た女子大の大学祭に対する好奇心であるとか、ある女子大一清心のことですが一と比べて山陽短大の持っている親しみやすさなどといったものをジョーク交りに書いたものです。

しかし私たちがいくら「これはジョークである」とか言ってみたところで、それを読んで実際に不快と感じる人々がいるわけです。しかもそれを理由にして大学祭企画に大学側が介入するということにもなりかねません。このことは厳しく反省しなければならないと思います。

メディアというものは、たとえそれが岡大新聞のようなミニコミであっても、たやすく他者を傷付けることができます。私たちはそのようなメディアの送り手としての責任をはっきりと認識し、今後このようなことのないように注意するところです。